

平成28年度胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の状況について

平成29年7月
北海道胆振総合振興局

【概要】

平成28年度の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は、新千歳空港の発着制限緩和による増便に伴う座席供給量の拡大などの影響により、前年度（974,334人泊）と比べて35,173人泊増加し、1,009,507人泊（前年度比103.6%）となりました。

これは、訪日外国人宿泊者数の発表を開始した平成10年度以降で、過去最高を更新しています。

（上期）

上期の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は415,576人泊で、前年度同期（419,222人泊）と比べて3,646人泊減少（前年度同期比99.1%）と、ほぼ横ばいになりました。

（下期）

下期の訪日外国人宿泊者数（延べ数）は593,931人泊で、前年度同期（555,112人泊）と比べて38,819人泊の増加（前年度同期比107.0%）となりました。

【圏域・国・地域別の状況】

訪日外国人宿泊者数（延べ数）を国・地域別に見ると、台湾が327,518人泊で最も多く、訪日外国人宿泊者数（延べ数）の32.4%を占めています。次いで中国（232,350人泊）、韓国（192,563人泊）、香港（77,960人泊）、マレーシア（44,285人泊）となっています。

上位5か国はすべてアジア圏の国で占められており、その他シンガポール（33,172人泊）、タイ（32,494人泊）、インドネシア（5,930人泊）、フィリピン（3,172人泊）ベトナム（781人泊）、インド（246人泊）を含めたアジアからの観光客が、訪日外国人宿泊者数（延べ数）全体のおよそ94.2%を占めています。

新千歳空港との直行定期便の増便・新規就航のあった韓国（前年度比118.8%）や近年北海道の人気の高まっているマレーシア（前年度比166.8%）等において宿泊客数が増加した一方、直行定期便の減便や中堅航空会社の解散があった台湾の宿泊者数が減少しています。

また、平成28年度は、ドイツ（前年度比247.1%）、フランス（前年度比146.2%）をはじめとするヨーロッパや北米が構成割合は少ないものの、宿泊者数の増加が見られました。

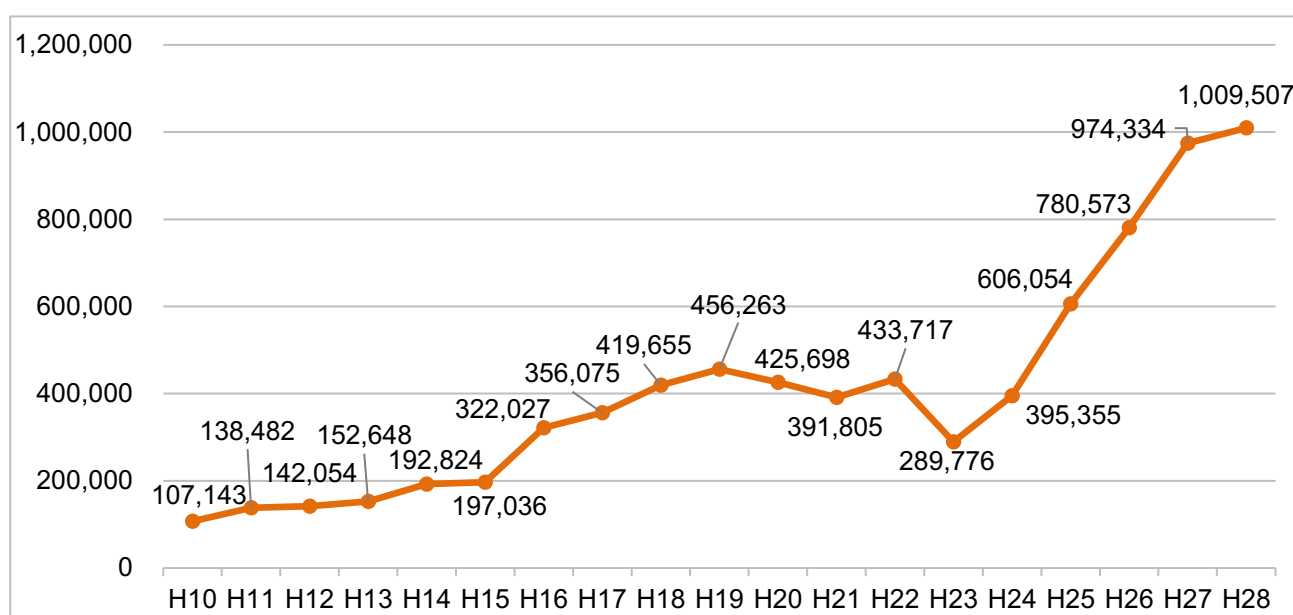
【参考1】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）内訳

（単位：人、％）

順位	国名	平成28年度宿泊者数（延べ数）		対前年度比	前年度からの増減数
			構成比		
1	台湾	327,518	32.4	92.4	▲ 26,765
2	中国	232,350	23.0	100.4	1,026
3	韓国	192,563	19.1	118.8	30,429
4	香港	77,960	7.7	104.5	3,356
5	マレーシア	44,285	4.4	166.8	17,732
	その他	134,831	13.4	107.5	9,395
	合計	1,009,507	100.0	103.6	35,173

【参考2】胆振管内訪日外国人宿泊者数（延べ数）の推移（H10年度～）

（単位：人）



【参考3】胆振管内訪日外国人宿泊者延べ数 国・地域別の推移

（単位：人）

